

放課後等デイサービス事業所での支援・活動のアイデア



製作 かたつむり作り



この製作課題では、色々な素材を使って描く楽しさを体験し、のりの特徴を知って貼る楽しさを味わえるよう、描画やのりづけなどの作業が取り入れられています。そのような作業に苦手さをもつお子さんや、一般的に行われるような一斉活動では上手く活動に参加できなかったり、作業が上手く達成できなかったりするお子さんもいらっしゃる事と思います。放課後等デイサービス事業所では、様々な苦手さをもったお子さんでも、上手に製作に取り組み、課題が達成できるような支援や意欲を育むための支援の工夫などが必要となります。そのための様々な支援、配慮の例を紹介します。

ねらいの例

子どもによってねらいは異なる。子どもの発達ニーズに応じて考える。

- ・ 創作的な作品を作る
- ・ 色を弁別する
- ・ 自立的に作業を進める
- ・ 手順書の使い方を学ぶ
- ・ 作成の手順を理解する
- ・ 他児と材料を共有する
- ・ 材料を選択する
- ・ 物の貸し借りの方法を学ぶ
- ・ 道具の使い方を学ぶ 等

準備物：画用紙（2色）、えのぐ、スポンジ、クレヨン、接着剤、毛糸、ペン

支援方法1：「手順書」を使用した支援

製作の手順が分かりやすいように、「手順書」を提示すると、子どもが自立的に作業を進めることができます。見て理解する力の高い子どもには、写真やイラストの提示が効果的です。言葉での説明だけでは十分に伝わらない場合でも、写真等で確認しながら作業を進めることができます。

また、支援者の声かけや介助が少なくなることで、「自分でできた」という達成感を得ることができます。そのような成功体験は、自信に繋がり、活動への意欲も高まっていきます。作業が一人でできるということだけでなく、活動への意欲を高めることも発達支援の一つとなります。



めくり式 手順書



一覧式 手順書



支援方法2：「見本提示」「説明書」を使用した支援

どのような作品を作ればいいのか、イメージしやすいように、見本を提示しています。数種類の見本を提示することで、子どもがイメージをふくらませやすいようにしています。

その際には、多種類の材料を提示し、選択できるように準備することが必要となります。材料によっては使い方を説明した方がいい場合もありますので、説明を記したものを材料に沿って提示することもあります。



見本



ボンドの使い方 説明書



支援方法3：発達に合わせた個別の課題設定

放課後等デイサービス事業所を利用する子どもは、一人一人発達の様子が違います。全員が同じ設定で課題をすることは、本人への負担感を高めてしまうことがあります。そのため子ども一人一人の発達に合った課題を設定する必要があります。



作業の工程を少なくする



今回の「かたつむり作り」では、子どもの発達に合わせて、作業の行程や課題内容を設定しています。創作的な活動が得意な子には、細かい指示は行わず、様々な材料から作品を作ってもらったり、自由に取り組むことが苦手な子には、見本と同じように作れるように写真等を提示したり、描くことやのりの使用が苦手な子には、本人が扱いやすい道具や材料を提示したりと、個別の課題設定を行っています。子どもの発達の課題やねらいにより、3～4グループを作って実施しています。